

# 5. 廃棄物とリサイクル

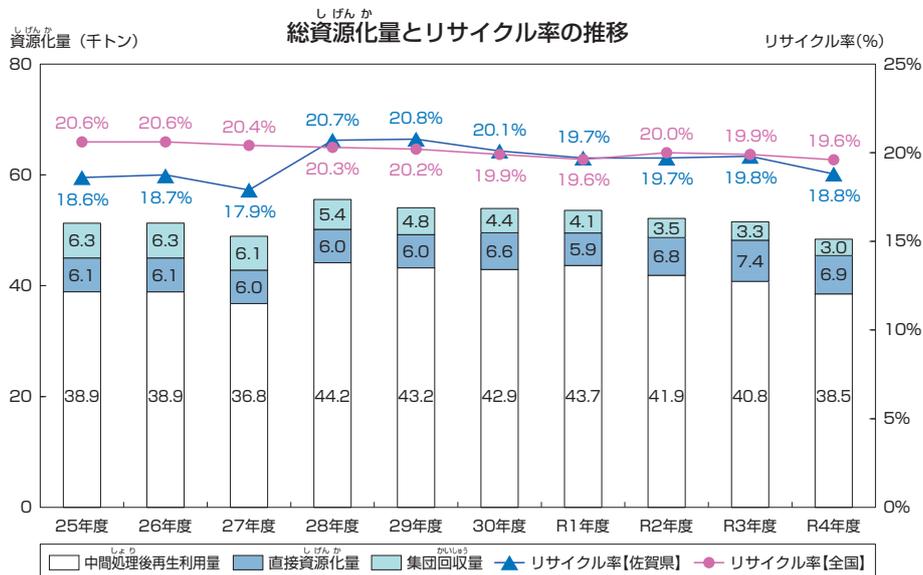
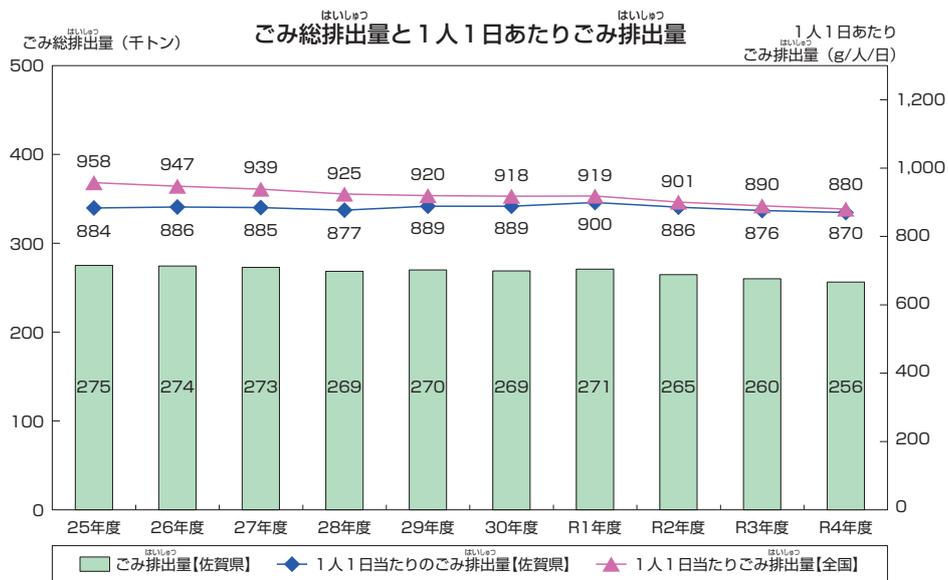
## ◆ごみ

わたしたちが買い物に行くスーパーやデパートには、たくさんの製品や食品が売られています。

わたしたちは、買った製品が古くなっていらなくなったり、食べきれずに食品が余ったりしたときは、ごみとして出しています。

現在、佐賀県民1人が1日出すごみの量は、およそ870gです。県全体では、家庭などから1日におよそ701トンのごみが出されており、1年間にするとおよそ25.6万トン（2022年度）にもなります。

ごみの量を減らすために、わたしたちができることを考える必要があります。



## ◆食品ロス

まだ食べられるのにごみとして捨てられる食品のことを「食品ロス」といいます。

日本中の家庭やレストランなどから出される食品ロスは、1年間で約472万トン（2022年度）と計算されており、これは1人あたりおにぎり1個分（約103g）の食べ物が毎日捨てられていることとなります。

食べられるものがゴミになってしまうのは、とてももったいないことなので、好き嫌いをなくして、残さず食べるようにすることが大切です。

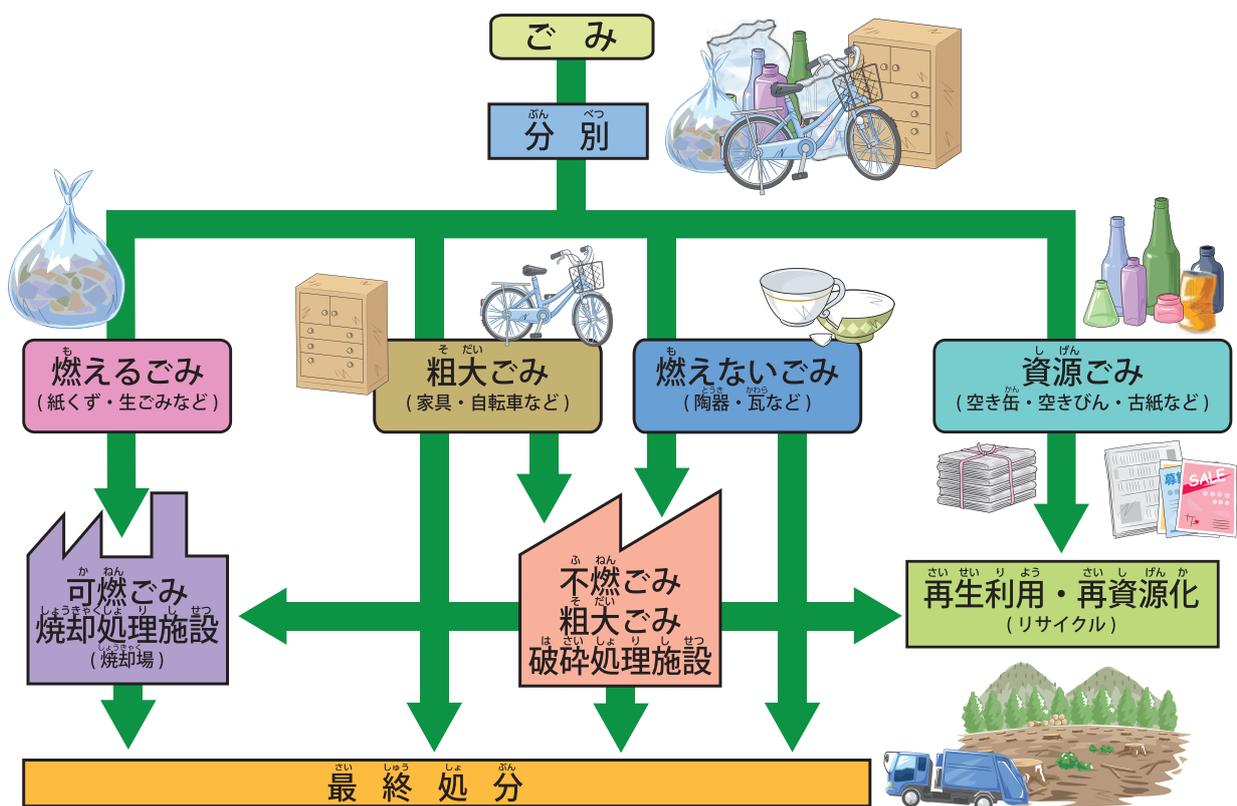
## ◆ごみの収集と処理

家庭や会社から出るごみは、大きく「燃えるごみ」、「燃えないごみ」、「粗大ごみ」、「資源ごみ」に分けられます。

家庭からのごみは、市役所や町役場のごみ収集車で集められて、処理施設に運ばれます。

また、工場などから出る産業廃棄物は、専門の処理業者が集めて処理しています。集められたごみは、処理施設で燃やされたり、細かくくだかれたりした後、埋め立てられます。

ごみの出る量が多すぎると、処理が間に合わなかったり、埋立地が足りなくなったりする心配が出てきます。



## ◆リデュース、リユース、リサイクル

わたしたちは、石油や木などからできた製品や電気を使いながら、便利な生活を送っています。しかし、石油などは何百万年という長い時間がかかってできるもので、人間が作ろうとしてもかんたんにはできないものです。このような資源はいくらでも使えるものではなく、その量には限りがあります。

わたしたちは、できるだけごみを出さないように工夫したり（リデュース）、何度もくり返し使ったり（リユース）、その後使えなくなったら別のものを作る原料として使ったり（リサイクル）することが大切です。

家庭などから出るごみの中から、リユース、リサイクルできるものは、ごみとしてではなく、「資源物」として出すようにしましょう。

### 3R

#### ①ごみを減らす

#### Reduce リデュース

- 使いきってごみを出さないようにする。
- ごみになりにくい製品を買う。
- 使いすての製品はなるべく使わない。
- 包装紙などはできるだけ少なくする。
- つめかえ用製品を買う。

#### ②くり返し使う

#### Reuse リユース

- ものはくり返し使う。
- いらなくなったものは、ほしい人にゆずる。
- フリーマーケットやリサイクルショップを利用する。
- こわれたら修理して使う。

#### ③再生利用

#### Recycle リサイクル

- 資源となるごみはきちんと分けて、資源回収に出す。
- リサイクルされた製品を使う。

### わたしたちに できること



- ごみを出すときは、市町で決められたルールを守って、きちんと分別して出しましょう。
- 食事は残さず食べて、ごみを少なくしましょう。また、生ごみを出すときは、必ず水切りをしましょう。
- 買い物のときは、まず必要かどうかを考えて、リサイクルされた製品やくり返し使える資源で作られたものなど、できるだけ環境にやさしいものを選びましょう。

## ◆海のプラスチックごみ問題

### 海洋ごみとマイクロプラスチック

近年、回収されずに川などを通じて海に流れ込み、海岸へ漂着したり、海に浮かんだりする海洋ごみが問題となっています。

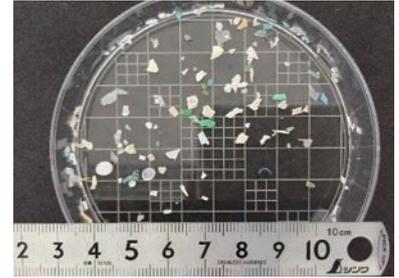
ペットボトルなどの容器包装からオモちゃまで、日常生活のあらゆる場所で利用されているプラスチック。海洋ごみにはこのプラスチックが多くふくまれており、海の環境に悪影響を及ぼしています。

「海洋プラスチックごみ」は長期にわたり海に残り、このままでは2050年までに魚の量を上回ることが予測されるなど、地球規模での環境汚染が心配されています。

また、「マイクロプラスチック」と呼ばれる5ミリメートル以下のプラスチックも増えており、動物がそれらを飲みこんでしまうなど、生き物や環境へ影響をあたえるとともに、海からとれる食べ物を通じて人の体に取り込まれ、人体にも影響をあたえることが心配されています。



佐賀県唐津市海岸



資料：九州大学 磯辺研究室

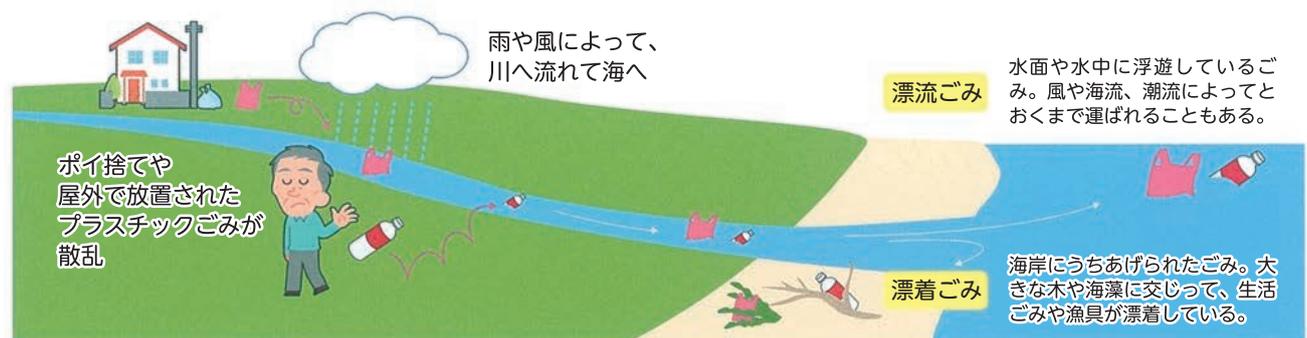
### 海のプラスチックごみはどこからくるの？

レジ袋やペットボトルなど、使い捨てにされるプラスチックごみがポイ捨てされたり、屋外に放置されたりすると、雨や風によって川に入り、海に流れ出てしまいます。

海に流れ出たプラスチックごみは、水面や水中に浮かんで潮の流れや風の力によって遠くまで運ばれたり、海の底に沈んだりしています。



佐賀県唐津市海岸



## プラスチックごみを減らす取り組み

こうした問題の解決に向けて、私たち一人一人が毎日の暮らしの中でプラスチックごみを減らす取り組みをしていくことが重要です。

佐賀県では、すべての県民がプラスチックごみ問題を理解し、自分から進んでプラスチックごみを減らすことを目指す「プラスマLife さが」に取り組んでいます。

一人一人がプラスチックごみを少しずつ減らす生活を心がけることで、大切な佐賀の自然を守っていきましょう。

### わたしたちに できること

- マイボトルやマイはしを持ち歩き、プラスチックのスプーンやストローなどの使用を減らす。
- スーパーなどで食品を小分けにするポリ袋の使用を減らす。
- 詰め替え用ボトルなどの繰り返し使えるものや、環境にやさしいプラスチックを使用したものを選ぶ。
- 食品の保存は、ふた付き容器を使い、ラップの使用を減らす。
- 海・川・山のレジャーでは、ごみを持ち帰る。
- 河川敷や海岸の清掃活動に参加する。
- ごみは所定の場所・時間に、分別して出す。
- ごみのポイ捨て、不法投棄はしない。



### 佐賀県の取り組み例

ありあけかい  
有明海  
クリーンアップ作戦



けんないっせい  
県内一斉  
ふるさと美化活動



## 世界海洋プラスチックプランニングセンター（仮称）【愛称：PLA PLA（プラプラ）】



佐賀県を含む九州北部エリアは、狭まった海峡地形や、冬の季節風などの影響により、多くの海洋ごみが漂着します。

佐賀県は、唐津市の波戸岬に海洋プラスチックの回収、洗浄、分別、再生までの一連の体験ができる施設を整備します。

ここを訪れた人が学び、考え、行動し、交流を生み、世界的課題である海洋プラスチック問題の解決を目指します。

世界初の海洋プラスチック専門拠点にぜひ来てみてください！



世界海洋プラスチックプランニングセンター（仮称）  
（令和8年度運営開始予定）



海洋プラスチック再生までの一連の体験ができる世界初の施設

## 海洋環境国際シンポジウム みんなの海 国際会議 vol.1



2025年1月に佐賀県唐津市で海洋プラスチック問題を考える国際会議を開催しました。

国内の研究者や企業、地元高校生はもとよりタイ、マレーシア、フィリピン、韓国などの海外の大学などの研究者が、海洋プラスチックや海洋環境に関する研究や取り組みを報告し、話し合い、最後に参加者みんなで波戸岬の海岸清掃をして、唐津の海の現状を知ってもらいました。